太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和７年度１０月号（ 第７号 ）
令和７年９月３０日　発行

【学校の教育目標】
心身ともに健康で 思いやりの心をもち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

学校は 「勉強をするところ」「友達と仲良くするところ」「安心・安全なところ」

【めざす児童像】
- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

自己肯定感

校長　藤田　昌一

「舘岩自然の教室」の退所式でのことです。校長の話のなかで、子どもたちに問いかけてみました。

> この３日間の舘岩での生活を振り返ってみましょう。大学では、「優、良、可」で成績が表されます。不合格の場合は「不可」もあります。それでは、皆さん自身で評価してみてください。

そして、自分はどれに当てはまるか挙手を求めました。子どもたちの挙手は、どれが一番多かったと思われますか。

＊

結果は、「良」が４割（強）くらい。「可」が３割くらい。「優」が２割くらい。なんと、念のためにたずねた「不可」に挙手した子も若干いました。

私（校長）から見ると、子どもたちの活動や生活は素晴らしく、もちろん評価は「優」だったのですが、子どもたちの自己評価は想定以上に低いように感じました。

国や市の学力調査等の質問紙調査においても、本校の子どもたちは、学力の結果に比べて自己肯定感の結果が低い状況にあります。

＊

> 『自己肯定感は高くないとダメなのか』※　　榎本博明

この本では、自己肯定感の調査は「自分に満足しているかどうかが問われ」ており、「自分に対する要求水準が低いために自分の現状に満足している場合もある」とした上で、「重視すべきは向上心の有無である。」と述べています。

そういった意味では、本校の子どもたちは、現状の自分（たちの力）に満足せず、もっと高いところを目指している子が多いと捉えることができます。

一方で、私は、足らない部分（伸びしろ）ばかりでなく、できたことや伸びたことに目を向けて、自分で自分を褒めたり認めたりしてあげることも大切だと思います。

自己肯定感について、皆様はどのようにお考えになりますか。

※「自己肯定感が自然に高まっていくために大切なこと」として、11 のヒントが記されています。